

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：14503

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04685

研究課題名(和文)国語科教育におけるメディアを活用したマルチモーダル・リテラシー育成の研究

研究課題名(英文)A study of multimodal literacy development using media in Japanese language education

研究代表者

羽田 潤 (HADA, Jun)

兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授

研究者番号：90509788

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本における国語科授業をアクティブ・ラーニング化するためにはメディア・リテラシー的視点を取り入れることが有効であることをあきらかにした。特に、イギリスのメディア学習は、マスメディアへの批判的な姿勢を育成するメディア・リテラシー教育だけではなく、映画研究の文脈から生じた作品分析を軸としたメディア学習が行われており、我が国の学習に取り入れることが可能な手法が多く見られる。イギリスのメディア教科書、メディア実践の分析から、我が国で行える国語科メディア学習を開発し、写真を使った物語創作、短編アニメーションを使った予告編制作といったマルチモーダル・リテラシーを活用した国語科授業の有効性をあきらかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国語科授業が「教える」授業ではなく、「考える」授業へと発想転換するためには、国語科教材そのものへの発想転換が必要だと考える。時に、社会との繋がるを意識させる教材を取り入れることが重要であり、そのためには、マルチモーダル・リテラシー的視点を採用することが有効な手段であることをあきらかにした点で意義ある研究である。

研究期間とは直接関係がないが、新型コロナウイルス感染症対策に関わり、多くの学校でオンライン授業が展開され、発信者側、受信者側において大きな混乱が生じた。こうした環境・状況の変化に柔軟に対応するための力がマルチモーダル・リテラシーであると考えられる。

研究成果の概要(英文)：It was clarified that it is effective to incorporate a media literacy perspective in order to make Japanese language classes active learning in Japan. In particular, media learning in the United Kingdom is not only media literacy education that fosters a critical attitude toward mass media, but media learning centered on the analysis of works arising from the context of movie research. There are many methods that can be incorporated into learning. From the analysis of British media textbooks and media practices, we have developed a Japanese language media study that can be done in Japan. I created a story using photographs and a trailer using short animation. I clarified the effectiveness of Japanese language classes that utilize multimodal literacy.

研究分野：国語科教育

キーワード：メディア・リテラシー マルチモーダル・リテラシー 広告 写真 アニメ 映画

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 新学習指導要領に向けて様々なワーキングが提言を行っていた時期である。国語科の性格を「ことばによる見方・考え方」について扱う教科であることが再確認された。
- (2) ICTの推進が継続的に行われていたが、電子黒板、タブレットの導入については自治体ごとの差が大きい状況であった。
- (3) イギリスのカリキュラムにおいては、より基本的なことへの精選が行われ、読みの対象としての「メディア」「マルチモーダル・テキスト」は明記されなくなった。
- (4) イギリスの試験制度の改革もあり、より試験として扱いやすい内容が「メディア・スタディズ」においても求められるようになってきた。
- (5) メディア・リテラシー、マルチモーダル・リテラシーの重要さは認識されつつあったが、メディアモラル、ネットリテラシーに対する課題が喫緊の課題でもあった。
- (6)

2. 研究の目的

本研究は、我が国におけるメディアを活用した国語科授業法を開発するため、イギリスにおいて刊行されている国語科学習及びメディア・スタディズ学習用のカリキュラム、教科書、教材集等からその示唆を得、我が国における方法を開発することを目的としている。メディア(マルチモーダル・テキスト)を活用する一番の理由は子どもに身近な素材であるが故である。日常的な受容行為を授業の中で取り立て意識的に取り組ませることで社会に生きて働く国語の力が身につくと考える。また、そのようなマルチモーダル・テキストを活用することができる力を本研究では、「マルチモーダル・リテラシー」と定義する。電子黒板や児童・生徒用タブレットの導入など、ICT化の進む社会及び教室において、マルチモーダル・リテラシーという概念が、多様な環境に対応しうるリテラシー概念として機能していくのではないかと考えている。

3. 研究の方法

- (1) イギリス国語科「ナショナル・カリキュラム(NC)」や、その実施細目である「ナショナル・リテラシー・ストラテジー(NLS)」におけるメディア・リテラシー観・ICT教育観をあきらかにする。
- (2) 近年のイギリスの国語科メディア・リテラシー教育を牽引し、NCの文言にも影響を与えている、英国映画研究所(BFI) English & Media Centreの提案するカリキュラムについて、特にデジタル教材を扱った教育について、その理論をあきらかにする。
- (3) 理論が具体化された国語科メディア教科書、メディア・スタディズ教科書を対象に、メディア・リテラシー育成の具体についてあきらかにする。
- (4) イギリスにおけるメディア・リテラシー教育の現状について調査する。
- (5) (1)～(4)を踏まえ、我が国におけるマルチモーダル・リテラシー教育プログラムを開発する。
- (6) マルチモーダル・リテラシー教育プログラムの有効性について検証を行う。
- (7) 研究成果を書籍として刊行する。

4. 研究成果

研究成果を『国語科教育におけるメディア・リテラシー教育の研究 - マルチモーダル・テキストの活用を中心に -』として、溪水社より刊行した。
目次は以下のとおりである。

目次
序章 研究の目的・方法
第1節 研究の目的
第2節 研究の方法
第1章 イギリスの国語科カリキュラムにおけるメディア・リテラシー教育
第1節 ナショナル・カリキュラムにおけるメディア・リテラシー教育
第2節 English & Media Centreにおけるメディア・リテラシー教育
第3節 英国映画研究所(BFI)におけるメディア・リテラシー教育
第4節 国語科とマルチモーダル・リテラシー
第2章 イギリスの教科書におけるメディア・リテラシー教育
第1節 オックスフォード大学出版の教科書における多様なメディア活用
第2節 国語科リテラシー教科書におけるメディア・リテラシー教育 - The Media Book
第3節 メディア教科書におけるメディア・リテラシー教育 - Doing Ads
第4節 メディア・スタディズ教科書におけるメディア・リテラシー教育 - Teaching TV News
第5節 教科書で育むリテラシー
第3章 イギリスの授業におけるメディア・リテラシー教育
第1節 イギリスにおけるメディア・リテラシー教育の現状と課題

第2節 国語科で行われるメディア・リテラシーの授業実践 Rosendale Primary School
第3節 メディア・スタディズで行われるメディア・リテラシーの授業実践 - “Moving Image Arts” の授業 : Caludon Castle School (総合制中等学校・シックスフォーム併設)
第4節 国語科メディア学習とメディア・スタディズ
第4章 日本におけるメディア・リテラシー教育
第1節 動画を軸としたマルチモーダル・リテラシー教育カリキュラム
第2節 授業実践開発 - 「基本教授テクニック」等を踏まえた学習プログラムの開発
第3節 マルチモーダル・テキストで育むリテラシー
終章 研究の総括と展望
第1節 総括
第2節 展望
参考・引用文献
あとがき
奥付

以下、「終章」を抜粋する。

第1節 総括

本研究では、イギリスにおけるメディア・リテラシー教育の目的、方法、内容を、主として英国映画研究所の「基本教授テクニック」、その教授法の具体である教科書・指導書、イギリスにおける授業実践を考察対象とし、教材選択の方法論、段階的な教授法の構成、具体的な学習活動の組織のあり方についてあきらかにし、また、それを踏まえた我が国における実践を開発、実行した。

第1章 イギリスの国語科カリキュラムにおけるメディア・リテラシー教育

本章では、ナショナル・カリキュラム及び英国映画研究所、English & Media Centre のカリキュラムの検討を通し、国語科カリキュラムとも連動した英国映画研究所の「基本教授テクニック」の動画を活用した方法論が、マルチモーダル・リテラシーの育みを具体化する際に有効であることをあきらかにした。

「マルチモーダル」という概念は、メディアに対する批判的・主体的態度を育てる授業が、丁寧な「モード」の読み取りから始めなければいけないことの必要性を示してくれたといえる。ギンター・クレスによる「モードとは何か？」という問いかけは、国語科が扱うべき「意味の生成」を意識させることに繋がる。ジェニー・グラハムはそうした文言に対しあまり積極的な姿勢を見せていなかったが、グラハムが扱いたかったのは、例えば「CM」や「広告」といった製品であるのに対し、クレスが目にしたのは、その「CM」や「広告」という社会的記号を生成する「書記言語」や「イメージ」の問題であったからである。無論、グラハムの学習法もクレスの提案同様、要素に分け入る方法である。これは英国映画研究所もキャリー・バザルジェットも方法論としては同様の段階を踏む。しかし、クレスがあくまでも「CM」を社会的記号と捉えるのに対し、グラハムやバザルジェットは「作品」として捉える。この違いは大きな違いではあるが、本研究では、クレスの文言を使いながら、グラハムやバザルジェットの方法論を活用したという立場である。

第2章 イギリスの教科書におけるメディア・リテラシー教育

本章では、メディア・リテラシー教育単元が含まれる教科書を5種類取り上げた。総合的教科書“New Oxford English”からは、年間カリキュラムの中に位置づくメディア単元のありようがあきらかになり、国語科メディア単元特化型教科書“Mixed Media”からは構成要素の段階的学習過程があきらかになり、国語科リテラシー教科書“The Media Book”からは、近年のイギリスリテラシー教育に力めるメディア学習の位置があきらかになり、国語科メディア教科書“Doing Ads”からは、「広告」の多様性及び教材価値と活動の多様性があきらかになり、メディア・スタディズ型教科書“Teaching TV News”では、他教科書でも取り上げられているニュース番組分析のより詳細なありようがあきらかになった。イギリスには検定制度がなく、また、国語科の場合に必ずしも教科書が使用されないという状況もある。とはいえ、教科書として提示されているメディア単元には、メディア・リテラシー教育がどうあるべきかの具体が表れているといえる。これら教科書単元の考察から、国語科におけるメディア・リテラシー教育の、目標設定、

教材選択，単元構成，学習活動についてあきらかになった。

第3章 イギリスの授業におけるメディア・リテラシー教育

本章では，イギリスにおけるメディア・リテラシー教育の現状と課題を探るため，MLC2010における発表内容の検討と，マルチモーダル・テキスト(動画)を用いた授業を2つ検討した。ナショナル・カリキュラムに「メディア」，「マルチモーダル・テキスト」が位置づけられているが，国語科の関心はやはり言語リテラシーであり，そのリテラシーをはぐ組むためにいかに効果的にマルチモーダル・テキストを活用すべきなのか，というのが国語科においての議論であり，変化する社会，進化するICTに翻弄され，ますますそういった技術に対する教師と学習者の隔たりが生まれていくことを懸念しているのが，メディア・スタディズ側の視点であった。

電子黒板が設置され，児童ひとりひとりにノートパソコンが配られる教室で，教師に求められる能力はさらに多様化していく。ハードの操作だけではなく，リテラシーを伴った教師であり，そういう教育を行う必要性をイギリスの教師達も強く感じているが，国語科は言語リテラシーを追求し，メディア・スタディズはマルチリテラシーを追求するという棲み分けがはっきりできてしまっているようにも感じた。

第4章 日本におけるメディア・リテラシー教育

本章では，第1章から第3章までの検討を踏まえ，我が国におけるメディア・リテラシー教育を構想した。マルチモーダル・テキストを活用した国語の授業は，マルチモーダル・テキストに対する理解があってこそ成立するという視点と，日常的に親しんでいるマルチモーダル・テキストを活用することで言語活動が充実し，言語リテラシーがよりよく育まれるという視点がある。国語科の文脈としては後者の視点になるが，メディア・リテラシー教育としての視点は前者である。この両視点を融合した方法論として，「フォト・ストーリーを作ろう」及び「『ひな鳥の冒険』の予告編を制作しよう」を開発した。写真(静止画)と言葉を組み合わせるといふマルチモーダルの活動に，物語(予告編)制作という従来の国語科学習を掛け合わせるという手法である。無論，イギリスの手法が下敷きとなっている。必要なのは，どのような言語活動を行う時でも，最適な教材を選ぶことであろう。それが，活字がベストならば活字を選べばよいし，マルチモーダルがベストならば，マルチモーダルを選べばよい。

重要なのは，今の子ども達は，潜在的マルチモーダル・リテラシーを兼ね備えているということである。学校の役割は，それを顕在化させ，客観視させ，使いこなせるようにさせることである。メディア・リテラシー教育が目指す，自立した言語主体者の育成である。

第2節 展望

現在，次期学習指導要領下での教科書が小学校では2020年度，中学校では2021年度から使用が開始される。現時点でどのような変化が表れるのかは未知数であるが，画期的に変化するという状況は見えてこない。また，教育のICT化の気運も高まりつつあるなか，国語科授業のICT化はもっとも遅れているジャンルと言えよう。しかし，1人に1台のタブレットや，BYOD(Bring your own device)の考え方の導入もあり，どの教室においても授業は変えられる状況が生まれつつある。1995年以降のパソコンルーム設置等の高度情報通信化以来の動きは2019年時点においても継続中である。社会は変化し，教室も変化する。その変化のひとつひとつを無理なく教室の言葉学びに取り込む手法として，全てのテキストに共通して存在するであろう意味を作り出しているものを見つけ出し，読解することを軸としたメディア学習は，これからの社会に必要な資質を育む教育として重要な位置を占めると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 羽田潤	4. 巻 31
2. 論文標題 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究 - “Doing Ads” (EMC, 2008)における「公共広告」を活用した学習活動を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大阪教育大学国語教育研究室編『国語教育学研究誌』	6. 最初と最後の頁 88-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 羽田潤	4. 巻 554
2. 論文標題 言葉による見方・考え方を広げる・深める言語活動のためのICT活用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本国語教育学会編『月刊国語教育研究』	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 羽田潤	4. 巻 44
2. 論文標題 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究 - 「グローバルチャリティキャンペーン」 (“Doing Ads”, EMC, 2008)を中心に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大分大学国語国文学会『国語の研究』	6. 最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 羽田潤	4. 巻 42
2. 論文標題 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究 - “Doing Ads” (EMC, 2000)における「チャリティ広告」を活用した学習活動を中心に -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語と教育	6. 最初と最後の頁 18-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 羽田潤
2. 発表標題 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究 “Doing Ads” (EMC,2008)における「非営利広告」を活用した学習活動を中心に その2
3. 学会等名 全国大学国語教育学会大阪大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽田潤
2. 発表標題 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究 “Doing Ads” (EMC,2008)における「非営利広告」を活用した学習活動を中心に
3. 学会等名 第133回全国大学国語教育学会福山大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 羽田 潤
2. 発表標題 マルチモーダル・テキストを活用した国語科教育の研究 - “Doing Ads” (EMC,2008)における「公共広告」を活用した学習活動を中心に -
3. 学会等名 全国大学国語教育学会東京大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----